

南極の昭和基地（地表面の代表性の点からは内陸基地の方が望ましいが、設営的に困難多い）を紹介した。エジプト；中国チベット高原；ブラジル；アメリカーポルダダー、パミューダ；オーストラリアー中央部、カナダ……。

実際に観測網の一点となった場合、データの質に責任を持つことの重要性が指摘された。測器の検定に注意を払い、相互比較（準機を巡回するなど）を行う。可能な場合、二種類以上の方法で結果を求める（例：直達+散乱でも全天日射を求める）。データの評価委員会を設ける。

以上、最終的に5日間の討論をまとめて、WCRP Report として出版される予定。

衛星が進歩することで、地上観測にとって替わるのではと予想されていたものが、実は衛星観測を意味あるものたらしめるには、精密な地上観測が必要になってきたという大変変遷に富む議論であった。

SRB: surface radiation budget (地表面放射収支)

COSPAR: Committee on Space Research (宇宙空間研究委員会)

WCRP: World Climate Research Programme (世界気候変動国際協同研究計画)

WMO: World Meteorological Organization (世界気象機関)

ICSU: International Council of Scientific Unions (国際学術連合会議)

IAMAP: International Association of Meteorology and Atmospheric Physics

ISCCP: International Satellite Cloud Climatology Project (国際衛星雲気候計画)

ISLSLSCP: International Satellite and Land Surface Climatology Project

FIRE: First ISCCP Regional Experiment

HIRS: High Resolution Infrared Radiometer Sounder

GMCC: Geophysical Monitoring for Climate Change

AVHRR: Advanced Very High Resolution Radiometer

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
日本気象学会 平成2年度春季大会	平成2年5月23日 ～25日	日本気象学会	気象庁	Vol. 36, No. 12
国際シンポジウム Assimilation of Observations in Meteorology and Oceanography	1990年7月9日 ～13日	WMO	フランス, Clermont- Ferrand	Vol. 36, No. 3
宇宙科学の国際夏期大学	1990年7月30日 ～8月17日	CNES	マルセイユ	Vol. 37, No. 1
西太平洋地球物理会議	1990年8月21日 ～25日	AGU	金沢	Vol. 36, No. 6
WMO 診断と長期予報 に関する国際研究集会	1990年10月8日 ～19日	WMO	中華人民共和国	Vol. 36, No. 11
日本気象学会 平成2年度秋季大会	平成2年10月24日 ～26日	日本気象学会	京都府総合見本市会館	
第11回風工学シンポジウム	平成2年12月6日 ～7日	同専門委員会	中央大学理工学部	Vol. 37, No. 1
気候変動による環境・社会 影響に関する国際会議	1991年1月27日 ～2月1日	UNEP	筑波大学	Vol. 36, No. 11
第20回測地学・地球物理 学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12